

「はたらき」を化学する

人と地球の未来に役立つ、夢あふれる化学品を生み出したい。

もっと快適に、もっと地球にやさしく・・・

その想いを胸に「はたらきの化学品」を開発し続けています。

今より、もっと素敵な明日をみつめて、チャレンジを続けます。

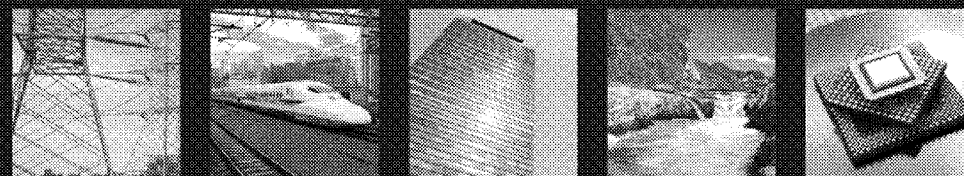


本社 〒605-0995 京都市東山区一橋野本町11-1
http://www.sanyo-chemical.co.jp/

三洋化成工業株式会社

人と技術の未来をひらく

社会の基盤を支えてきた確かな技術力で
未来からのリクエストをカタチにしています。



日新電機株式会社

〒615-8686 京都市右京区梅津高畝町47番地
TEL (075) 861-3151 (代表) FAX (075) 864-8312 http://nissin.jp

モノづくり先進都市

新たな成長への軌跡

京都市は2010年11月、京都市産業技術研究所内に知恵産業融合センターを開業した。伝統産業と先端産業を融合して、新産業を創出するのが狙いだ。門川大京都市長肝心の取り組みで、新しい京都ブランドとなるような技術が誕生するが注目を集めている。知恵産業を育成する上で重視することや、成功させる秘訣(ひけつ)について、木村良晴センター長に話を聞いた。

知恵産業育成のポイントを聞く

センター長を引き受けた経緯から聞かせて下さい。

「私がセンター長を務める京都工芸繊維大学繊維科学センターが京都市産業技術研究所と覚書を交わしたほか、京都高度技術研究所の副所長を務めたりと、今まで市の産業振興にかかわってきた。こうした経験を生かして、他団体ともうまく連携しながら、知恵産業を振興するお手伝いができるのではと考えた」

センターの運営方針

「新しい技術の発掘、ニッチ市場の発掘、そして新事業を引っ張るリーダーの育成に取り組みたいと考えている。そうした事業推進のためのアンテナであると同時に、司令塔の役割を果たしたい」

知恵産業融合センター長

木村 良晴氏

(京都工芸繊維大学教授)



異業種間連携が重要

京都市産業技術研究所では従来、繊維、焼き物、仏具など各業界ごと

に研究会を作った。異業種間の連携が必要だ。異業種の企業や大学を結びつけ、新技術開発につなげた



「効果的に支援したい。人材育成も重視しています。『各中小企業内に次世代を担うリーダーを育成することが必要だ。そのための人材育成プログラムを現在検討中。例えば京都市中小企業支援センターが運営する『オスカ―認定制度』は、中小企業の社長を育成する制度としても知られる。制度を通じ社長にさまざまな経験を積んでもらう仕組みで、私も審査に関わっている。これらを参考に検討を進めている」

ニッチ市場を発掘

中小企業と大学 橋渡しも

再生医療分野に力点

産学ネットワーク構築へ

K R P

産学公交流を進めながら多くのベンチャー企業を輩出してきた京都リサーチパーク(KRP)。新たな地域支援策として情報通信技術、再生医療サポート、デザインなどのプラットフォームで

新産業・新事業の創出を必要材料や器具などの情報を入手。微細な金属加工や試作分野で卓越した技術や手法を有する地域のモノづくり関連企業とのマッチングを進めてきた。そのため、難解な再生医療の概要や現場で

必要材料や器具などの情報を入手。微細な金属加工や試作分野で卓越した技術や手法を有する地域のモノづくり関連企業とのマッチングを進めてきた。そのため、難解な再生医療の概要や現場で



「再生医療を進展させるには最適な医療器具が不可欠。『細胞シート切り取りパンチ』など、検査を効率化する器具が開発されるなど実績もあけている。一方、地域企業が同分野に参入することで新たな産業創出の可能性が期待されている。1月には産業化を目指した実用セミナー「再生医療の全体像を見た」を開催。再生医療の最新動向や産業化への留意点などを専門家が解説した。主催者として左納徹郎KRP社長は「研究者と企業をつなぎモノづくりの仕組み作りを進めてきた。次世代の産業基盤構築に今後、も取り組むを強化していく」と語った。

京都商工会議所は「知恵産業のまち・京都」を提唱し、多彩な支援策を展開している。その一環として、「知恵ビジネスプランコンテスト」を実施し、2月25日に表彰式を行った。京都の特性や企業の独自性を生かして、世の中にない製品やサービスを開発・販売するプランを「知恵ビジネス」として認定する取り組みで、実施は今回が2回目。コンテストへの応募総数84件の中から、書面や面接審査を経て6件選出した。累計選出件数は12件。



今回認定したのは大木工芸(大津市)による「フッ素DLC超高密度放電素材の開発・販売」や、東和ススポーツ施設(京都市左京区)の「資源循環型土『エコクレイ』の開発・販売」など。認定を受けた事業者らは今後の支援を受けながら、事業実現に取り組む。こうした取り組みを通じて、新しい知恵産業創出を目指す。

再生医療を進展させるには最適な医療器具が不可欠。『細胞シート切り取りパンチ』など、検査を効率化する器具が開発されるなど実績もあけている。一方、地域企業が同分野に参入することで新たな産業創出の可能性が期待されている。1月には産業化を目指した実用セミナー「再生医療の全体像を見た」を開催。再生医療の最新動向や産業化への留意点などを専門家が解説した。主催者として左納徹郎KRP社長は「研究者と企業をつなぎモノづくりの仕組み作りを進めてきた。次世代の産業基盤構築に今後、も取り組むを強化していく」と語った。

京都から世界へ!

オンデマンド製本機シェア世界トップクラス

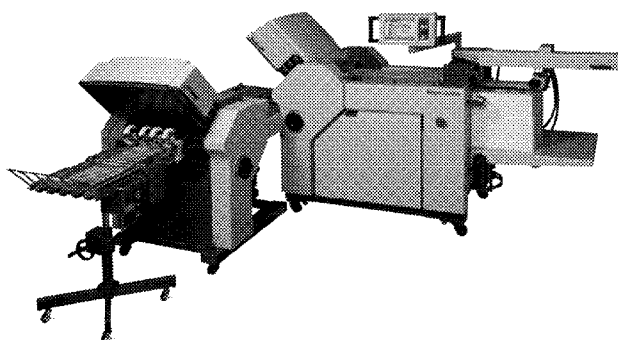
ホリゾングループは、京都を発祥の地として、世界で唯一製本の4工程(紙折り・丁合・製本・断裁)を開発・製造・販売しています。製品は、日本はもとより、世界90カ国以上の国々で活躍しています。

(左写真) 滋賀県環境基準を遵守しISO14001, 9001の下で開発製造を行っている主力生産拠点・敷地140,000㎡の「びわこ工場」(滋賀県高島市)



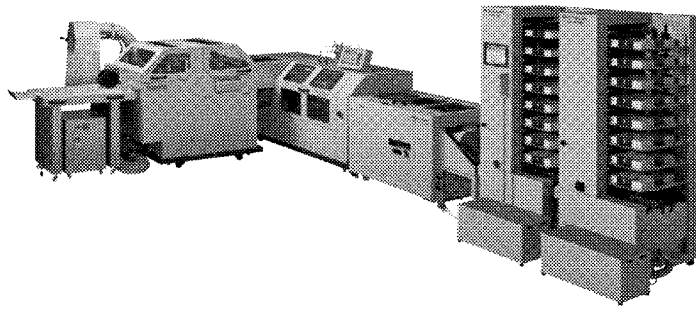
2点式 四六判半裁紙折機 AF-566T4F

2点式構成による幅広い折パターンと紙質への対応により、作業幅が拡大します。ローラーギャップ調整を含めた全自動セットアップによる作業時間の短縮を実現しました。



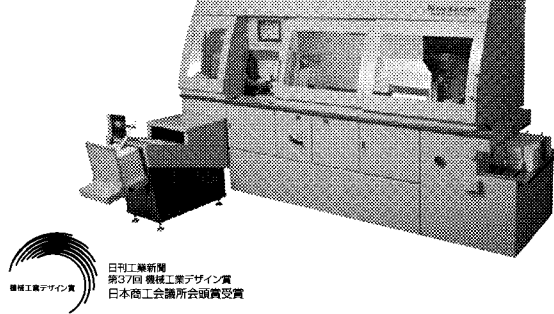
ペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム StitchLiner6000

「ペラ丁合・筋入れ・折り・鞍掛け・中綴じ・三方断裁のシステム化」という新発想の鞍掛け中綴じ製本システム。最高6,000冊/時の処理速度で中小ロットの仕事から大ロットの仕事まで高速かつ効率的に処理できます。



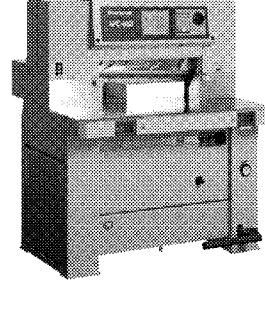
自動無線綴機4クランプタイプ BQ-470

大型タッチパネルディスプレイに製本内容を入力するだけで、全てのセットアップが自動で行われます。また、交換式メルトタンク機構の採用で、用途に合わせてEVAとPURの切り替えが可能になりました。



コンピューター制御全自動油圧断裁機 APC-66D

サーボモータの採用により、高速・高精度なバックゲージの位置決めを実現しました。操作は、タッチパネルディスプレイの採用で、初めての方でもわかりやすく安心です。



Horizon
www.horizon.co.jp

総ホリゾン東テック

【本社】〒132-8562 東京都江戸川区松江5-10-9
TEL. 03(3652)7631(代) FAX. 03(3652)8083

【東北営業所】〒984-0002 仙台市若林区部町東1-7-31
TEL. 022(782)2821(代) FAX. 022(782)3068

総ホリゾン西工ナール

【本社】〒601-8206 京都市南区久世大蔵町510
TEL. 075(933)3060(代) FAX. 075(933)4025

【九州営業所】〒813-0034 福岡市東区多の津4-12-17
TEL. 092(626)8111(代) FAX. 092(626)8112

太陽精機株式会社

【京都工場】〒601-8204 京都市南区久世東土川町242
TEL. 075(921)9211(代) FAX. 075(934)8886

www.taiyo-seiki.jp

【びわこ工場】〒520-1501 滋賀県高島市新堀町相字城ノ下1600
TEL. 0740(25)4567(代) FAX. 0740(25)8008

